

令和4年度第3回高知市環境審議会 会議録（要旨）

- 1 日時 令和4年11月28日（月）15：00～16：45
- 2 場所 高知市本庁舎6階611・612・613大会議室
- 3 出席者 〔委員〕※敬称略
川田勲（会長），安部順子，池田康友，須内宗一，田中佐和子，長尾達雄，
中田陽子，堀澤栄，武藤信之
—以上，委員9名出席で審議会成立
（欠席：猪野文章，岡林南洋，北山めぐみ，松本明）

〔事務局〕

環境部：高岡部長，児玉副部長

新エネルギー・環境政策課：田村課長，田中課長補佐，徳能係長，橋村主査

〔庁内出席者〕

環境保全課 小原課長補佐，清掃工場 戸梶工場長，環境業務課 坂吉課長，
廃棄物対策課 藤村課長，環境施設対策課 小畑課長，
東部環境センター 山本所長，みどり課 畑山課長，都市計画課 山本課長，
農林水産課 島崎課長，鏡地域振興課 川上課長

4 議題

- (1) 第三次高知市環境基本計画案について
- (2) 高知市環境基本条例について

5 配布資料

- (1) 会次第
- (2) 高知市環境審議会委員名簿
- (3) 【資料1】第三次高知市環境基本計画（案） 概要版
- (4) 【資料2】第三次高知市環境基本計画（案）
- (5) 【資料3】高知市環境基本条例について
- (6) 【資料4】第2回審議会時の計画素案との比較対照表
- (7) 【資料5】基本目標における代表的な指標・各施策の個別指標一覧

6 審議内容

(1) 第三次高知市環境基本計画案について

〈池田委員〉

22, 23 ページについて、23 ページのパートナーシップの一例として、事務局から資源循環への理解が進めば、3Rの実践に繋がり、気候変動への理解が進めば、脱炭素型のライフスタイルの実践に繋がるだろうということが示された。確かに1市民レベルであれば、その行動は、理解が進めば変わりうると思うが、事業者の中でも特に大きな社会的影響力を持つ事業体こそが環境にもものすごく大きなインパクトを持っているのではないかと。そこは理屈で分かっているけど、営業上商売上、もう少し言うと会社法の定める利益の追求と分配という機能に縛られているからこそ、今日の環境問題が時には公害問題として発生してきたのではないかと。

これは、市民一般と本来これから大いに果たすべき事業者の役割ってものの違いが読み取れない一般的なイメージ。大きな影響力を持っている企業の行動原理が大きく環境にインパクトを与える可能性がこの絵では読み取れない。22 ページの事業者の理解と行動の中身も、あたかも産業活動全般がただただ環境にインパクトを与えるのみという書きぶり、せいぜい事業活動で省エネに努めましょうとしか読み取れない。

林業についても、儲けだけを考えれば切るだけでいいが、それではだめだから儲けにならない切り捨て間伐をやっている。

もっと言えば、従来石灰業をやっている会社が多角経営に努力して取り組んでいる。その社長の声を聞くと、今まで排出してきたからこそ、吸収源対策に企業活動としても取り組みたいと思っている。環境貢献する企業活動の展開、それに対する行政の特別な支援といったものが読み取れる書き方にしていきたい。

〈事務局〉

一人ひとりの行動変容を意識して記載しているため、大きなインパクトを与えている企業活動についてというところは、基礎自治体としてどこまでというところはあるかもわからないが、企業との関係や貢献という方向も踏まえながら記述を検討したい。

〈田中委員〉

私市民としては、23 ページは非常に分かりやすいと思った。もう一工夫あればいいかなと思ったけど、自分の中ではすごくすんなりと入ってきた。

これをきちんと市民及び事業者に理解をしていただけたらすごくいい形で示せるのではないかと。

あと気になったのは、こういう難しい冊子なので、コラムを充実させていただけたら市民がすごく読みやすくなると思う。32 ページの森林環境譲与税について、何か写真を示してもらいたい。どういう風に使われているのか、市民としては関心があるところ

なので、具体的に示していただきたい。

39 ページのコラムでは、商慣習という言葉が分かりづらいのもう少しかみ砕いて書いていただきたい。食品ロスは、市民にとってもごみの減量に向けて取り組む大事な所なので、理解を進めるためにも、もう少し分かりやすい言葉を使っていただきたい。

〈事務局〉

23 ページは、池田委員、田中委員のご意見を踏まえて、市民、事業者それぞれの主体の立場からというそれぞれの特徴もあるので、また検討させていただく。

コラムについては、それぞれの施策に対して、この言葉はきちんと説明しておけばいいだろうと思うものを抜き出している。耳慣れない言葉も多いので、表現の工夫については検討させていただく。

〈須内委員〉

最終処分場の残余年数だが、直近値が 2054 年まで、目標値が 20 年ということで、目標値が手前になっているがこれはどういうことか。

海域水質の環境基準の達成率が 2021 年度は 20% でとても低く、目標値が 80% と高い数字になっているので、分かりにくい。

新規林業従事者数が、2021 年度が 3 人、2030 年度の目標値が 4 人となっているが、素人考えていくと、目標なのでもう少し高めを設定してもいいのではないか。関連計画の数字との整合性もあってとは思いますが、人の数がもうちょっと増えたらいいんじゃないかと思う。

〈鏡地域振興課〉

新規林業従事者数については、総合計画策定時に 4 人であげていたが、森林環境譲与税も入り、森林組合とも協力して事業を進めていかなければいけないし、これ以上の数字になるようにやっていかないといけないと思っているので、見直しをかける際には目標も増やしたいと考えている。

〈池田委員〉

採用するときに支援いただけるのはありがたいが、定着率は 50% もっていない。

林業大学校から一生懸命雇うけれども、かなりの訓練期間が必要で、本当の技術力として定着するには良くて半分。

次の総合計画に位置付ける時には、定着した数を載せてほしいと思う。

頑張っってインターンシップで来る人は採用するが、危ない現場かつ木が大きくなっているせいですぐに 1 人前にならないので、委員の皆さんも行政の皆さんもご支援をお願いしたい。

〈事務局〉

最終処分場の残余年数の目標値は、下段カッコ書きの年度が抜けていた。これは 2032 年度における目標値であり、2032 年度時点で 20 年以上の残余年数を目指すもの。国の

計画において、20年以上というのが目標に掲げられており、それと整合を取り、一般廃棄物処理基本計画で掲げた数値目標となっている。

〈環境保全課〉

CODは、環境基準が毎年達成している地点と達成していない地点が入れ替わり、不安定な状態にある。今後、生活排水処理の対策等を進め、安定していくという形で80%という目標を立てている。

〈須内委員〉

2021年度はたまたまということか。

〈環境保全課〉

そういうことです。1か所達成したが、残り4か所は達成しなかった。環境基準値と僅差の状態のため、年度によっては、上下の振れ幅があり、2021年度は4か所環境基準を超えてしまった。それを安定させるために負荷を下げることによって80%を目指すという形にしている。

〈池田委員〉

44 ページの脱炭素型のくらし・まちづくりの主な関連計画に、高知市森林整備計画を入れてほしい。

46 ページの本文中、再生可能エネルギーの定義づけの前に、限定条件、温室効果ガスが発生しないという文言を挿入した意図が分からない。挿入した意図を教えてください。限定条件をつけるならば正確につけてほしい。

〈事務局〉

44 ページは、基本目標1に森林の保全があり、基本目標3には森林整備等の文脈はないことから外しているが、なお検討する。

46 ページは、一般的な捉えとしてCO₂を出さないという意図での記述だが、もう少し表現に齟齬が無いように工夫する。

〈池田委員〉

くれぐれも化石燃料代替を含めた再生可能エネルギーの普及ということをはっきりさせていただきたい。

〈川田会長〉

一般の方からすると木質バイオマス発電は木を燃やしているんだからガスが出ているのではないかというイメージもあり、それを意識して、一般市民に対してあえて温室効果ガスが発生しないという文言を入れたとすれば、一般の人たちには分かりやすい。しかし、なぜ温室効果ガスが発生しないのかという疑問は出てくるため、その辺分かりやすいような形で記載いただきたい。

〈堀澤委員〉

温室効果ガスが発生しないという部分が気になる。太陽光のパネルを山の木を切って設置するというのが気になる。森林は大事な吸収源であるという姿勢をだしていただきたい。全体のバランスでやはり吸収源も含めてゼロを目指すというところは必要なのではないか。

〈中田委員〉

全体的に分かりやすくまとめられており、カラーやアイコンを使ってとても見やすくなった。

内容自体が多岐にわたっているため、専門用語や分からない用語がたくさんあるので、用語解説をしっかりといただきたい。

田中委員がおっしゃったように、コラムは市民からするとすごく参考になる。脱炭素、カーボンニュートラル、カーボンゼロという言葉が、具体的に入ってこない。そういうのが見やすくあればいいと思う。

第5章の施策で、この内容が国、県からの一般論というまとまりの中で、高知らしいのは基本目標1なので、そこに先ほどの森林との関わりがあると高知らしい内容になるのではないかと感じた。

個別指標たくさん並べてくれているが、客観的に見るとこれだけの指標を抑えていくのは大変だと思う。市民目線でいくと、1つの施策に対して1つが分かりやすく、皆さんの仕事も集約されて効率化されると感じた。

〈事務局〉

難しい言葉については用語解説に記載し、各施策のコラムを同じページ内で示すことでより分かりやすく整理する予定。

環境基本計画は各自治体がつけているものであり、基本的な構成がそんなに変わるものではないが、その中でも高知らしいところを目指したい。基本目標1では、合併により様々な自然の資産を得ているのでその部分を重視し、基本目標5では関わる市民や事業者の皆さんの理解や行動につなげることが大事だと思うので、基本目標1から5までの流れをしっかりと繋げようと考えている。

〈武藤委員〉

計画そのものの理解や普及は非常に大事だと思うが、このあたりの記載はどれぐらいできるものなのか。あるいは、ここには書かず、別途パンフレットなどを作り、普及を図っていくのか、どうやって計画そのものを伝えていくかについて、現時点で考えがあれば、ご紹介いただきたい。

〈事務局〉

来年度、印刷物としてしっかり仕上げていく。

また、今年度もやってきたが、いろんな機会をとらえて、環境に関する啓発や行事に

取り組んでいる。今年度はイオンと協定を結んでおり、環境部としても4回環境啓発イベントを行った。

今回この計画に盛り込んだ内容を概要版という形で印刷できれば1番いいが、パネル展示等も含めて分かりやすく説明し、理解につなげるというところで活用していきたいと考えている。

〈安部委員〉

基本目標3の数値目標で、市域の電力消費量は少なくすべきだと思うが、この指標は増えているのはなぜか。

〈事務局〉

市域の電力消費量の目標値が確かに数字自体は上がっているという状況であるが、決して増やしていくということではない。2016年度の新エネルギービジョン改定時に掲げた2030年度の目標値が1,762であり、今回その数字を引用し掲載しているが、2020年度実績ですでに達成している。元の計画に載っている目標値が更新できていないため、その数字がそのまま載っており、紛らわしい表現となっているが、いずれにしても省エネルギー化に努めていくといったことは当然取り組んでいかなければならない。

〈高岡部長〉

気づいておらず申し訳なかった。計画で直近値から増えるというのは見せ方に問題がある。また、最近の年度の直近値を精査し、新エネルギービジョンに記載のある目標値に固執するわけではないので、いったん持ち帰り、事務局で再度精査させていただきたい。

〈長尾委員〉

この計画は素晴らしいものが修正されてできたと自分なりに思っている。

コラムや用語解説については、できるだけ分かりやすく、中学校、小学校上級生が見ても分かる言葉をできるだけ使っていただきたい。

〈川田会長〉

事務局も試行錯誤しながらいい形で整理されているという風を感じている。

重要なことだけど、読み手にとって分かりにくいものをコラムで解説していただくので、分かりやすい文言で書くことは必要だと思う。訂正をする機会があれば、その点を配慮していただきたい。

今年度、第1回から第3回審議会において、一通り次期計画について、委員の皆さんからご意見をいただいたところ。

事務局からの説明のとおり、本日の審議会は、12月市議会常任委員会での中間報告、1月のパブリックコメント実施前の最後の審議会となっている。

今回いただいた意見の調整については、事務局と会長私に一任していただき、必要に応じて委員の皆様にご相談させていただきたいという風に思っている。委員の皆さん、よろしいか。

それでは以後、訂正等の問題については、私と事務局で検討し、取り扱わせていただきたい。

次回第4回審議会は、事務局から最終案をいただき、それに対して審議会から答申案を出すという流れになる。引き続きよろしく願います。

(2) 高知市環境基本条例について

〈池田委員〉

現時点で条例改正を要しないことには賛成する。しかし、一部改正のテーマとなった地球規模の環境問題は各地域で本当に真剣に取り組まないといけないことは明確である。高知市は独自色のないごく普通の地域だと思うが、その地域でもこんなことができるというのをこれから一緒に作り、条例にすべき時になれば、しっかり合意を取ることがを前提に賛成する。